



宇都宮市立図書館にある

## 「宇都宮藩と江戸の豪商」に関する本



### ◆江戸の商人

『豪商列伝 なぜ彼らは一代で成り上がったのか』

(河合敦／著 PHPエディターズ・グループ 2014) 【672/カ】

日本にはかつて、こんなすごい商人がいた。三井高利、紀伊国屋文左衛門、御木本幸吉など、28通りの成功譚を紹介。大商人の苦闘の生涯からビジネスの秘訣、生き方を考える1冊。

『徳川三百年を支えた豪商の「才覚」』

(童門冬二／著 角川マガジズ 2013) 【672/ド】

「士農工商」という身分制度の中、武家の無理難題にも「逆境こそ好機」と知恵と信念で立ち向かい、商機をつかんだ商人たち。庶民だけでなく、困窮する大名家までもを支えた豪商たちの決断力と行動力に迫る。

『江戸の高利貸 旗本・御家人と札差 歴史文化セレクション』

(北原進／著 吉川弘文館 2008) 【210.5/キ】

旗本・御家人相手に商売をしていた札差が、高利貸を行うようになって富を築いていく。札差の誕生、繁栄から、幕府の政策による借金帳消しの危機、江戸時代の終わりとともに消滅するまでの実態を探る。

### ◆江戸の町名主

『都市 江戸に生きる』

(吉田伸之／著 岩波書店 2015) 【210.5/ヨ】

江戸の町方を取り上げ、都市社会の実態に迫る。江戸の中心部として、南伝馬町およびその周辺を舞台に、町名主・高野家の史料から町の様子を述べる。

『江戸の町役人』

(吉原健一郎／吉川弘文館 2007) 【322.1/ヨ】

江戸城下町の成立からその発展、焦点となる町役人の変遷、職務内容など、幕政改革の影響を受けながら変容する町支配体制の、時代ごとの様相を紹介する。

### ◆大名の財政事情

『大名の家計簿 “崖っぷち” お殿様、逆転の財政改革』

(山下昌也／著 角川マガジズ 2012) 【210.5/ヤ】

江戸時代、慢性的な財政難に悪戦苦闘していた“倒産寸前”の大名は、どう危機を乗り越えたのか。赤字を黒字に転換した“崖っぷち”大名、藩主の覚悟と知恵を紹介する。

『わずか五千石、小さな大大名の遣り繰り算段 “名門” 喜連川家を中心に学ぶ「武士の生き残り術」』 (山下昌也／著 主婦の友社 2012) 【210.5/ヤ】

「御所様」と呼ばれた日本一小さな大名家の節約術とは。本書では、“名門” 喜連川家を中心に、全国の貧乏大名たちの節約術や生き残り術を徹底分析。今も昔も変わらぬ、生きる知恵がそこにある。

『大名やりくり帖 金持大名・貧乏大名』

(松好貞夫／著 新人物往来社 1995) 【210.5】 【332/マ】

富貴と権勢の象徴である大名の台所も実は火の車。幕藩体制の本拠江戸城の金蔵もからっぽだった。その窮乏の原因は。諸藩経済の実体は。「百鬼夜行」の武家社会を描く。

### ◆宇都宮藩戸田家と川村家

『宇都宮の歴史 増補新版』 (徳田浩淳／著 落合書店 1979) 【K210/ト】

縄文時代から近現代までの宇都宮の歴史を紹介する。江戸時代に重点が置かれ、宇都宮藩が財政的にひっ迫した状況や、馬込・川村家のほか、各方面から借財したことが記されている。

『うつのみや重宝記 第1～30号』(合冊)

(うつのみや重宝記編集委員会／編 随想舎 1988) 【K205/ウ】

第27号、伊藤重男「川村迂叟と大嶋商舎—宇都宮最初の近代工業の創始者—」において、江戸の豪商・川村家の歴史から宇都宮藩との関わり、大嶋商舎の設立と変遷を述べている。

『宇都宮市史 6 近世通史編』(宇都宮市史編さん委員会／編 1982) 【K210】

『宇都宮市史 8 近・現代編Ⅱ』(宇都宮市史編さん委員会／編 1981) 【K210】

宇都宮市の歴史を調べるための基本資料。川村家と宇都宮藩の関わりや、残された史料が乏しい大嶋商舎についてもまとめられている。

『宇都宮城主 戸田御家記 復刻版』 (松井恒太郎／著 随想舎 1989) 【K210.5/マ】

戸田家の「当用留」や「戸田明細記」をもとに、昭和12年(1937)に編纂された戸田家の伝記。これを昭和36年(1961)より上・中・下巻として下野史料保存会が刊行したものに、「戸田忠恕記」を追加し、1冊にまとめて復刻したもの。

館内閲覧のみの資料も含まれています。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

---

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30~19:00 (金曜休館)

---